

B-72 洗淨剤の洗淨力試験についての一考察
(第3報) 試験装置及び各種汚垢の検討

ライオン油脂 近藤 邦成
藤井 徹也
○西田 敦
古川 三郎

1. 洗淨力の試験法としてはカーボンブラックを主体にした人工汚染布法が広く採用されてはいるが、吾々は、この方法では実際洗濯の結果と一致しない場合のあることを認め、より実際に適した方法として試験布に天然汚垢衿布を使用している。(日本家政学会、第12回、第13回総会にて報告)今回は洗淨装置として洗濯機を用いた場合とラウンドロメーターを用いた場合とでどのような傾向を示すかを検討した。また衿布は天然汚垢布の一例に過ぎないが、その他の各種の天然汚垢布を用いて洗淨テストを行ない、衿布の場合の傾向と比較した。

2. 各種の洗淨剤を用い、天然汚垢布としては試験布を上衣の衿に縫いつけて3日間着用したものを使用した。洗濯機法は前報の方法に準じ、ラウンドロメーター法は人工汚染布に関する油化学協会法に準じた。何れの場合も温度は 25°C とし判定は肉眼で比較し、左右の衿布の汚れの差により+2点~-2点と採点し Scheffé の一対比較法で比較した。また、その他の各種天然汚垢布として、ハンカチ、枕カバー、スリッパ貼付布、掃除機の塵埃で汚染した布等を用い、それらの傾向を比較した。

3. ラウンドロメーター法は洗濯機法によく似た傾向を示すが、その分散比は小さく、試験法としては洗濯機法の方が検出度が高く、適切であると考えられる。また

各種天然汚垢の傾向も大体において似ており、衾布を各種天然汚垢の代表としても、大きな間違いのないことを認められた。